

2022年

春の読書感想文・課題作文優秀作品

【小学部・読書感想文】

「赤毛証明」を読んで

センター北校 小6 K・Tさん（南山田小）

主人公めぐは生まれつき赤毛で生徒手帳に「赤毛証明」という印を押されたことから、自分はふつうではないと言われているように感じてしまう。そこから、「ふつうとは何か」というテーマで夏休みに自由研究を始める。そして、親友の母親が死ぬことを考えたが人の優しさに触れて乗り越えた話を聞く。さらに、出会った人たちが自分なりに努力をしている姿も見る。そこから、ふつうとは自分らしくいることだと考えて、自分にほこりを持って生きていこうと決心する。この話から、作者はふつうに生きるといふことはとても特別ですばらしいことだと私たちに伝えたかったのだと思う。

私は作者の考えに賛成だ。なぜなら、自分らしく生きること自分で自分に自信を持って前向きに生きることができると思うからだ。私は転校した最初の頃、周りの目を気にし過ぎてしまい、素直に学校を楽しめなかったという経験がある。その時は学校に行くのが嫌になったり、行ってもすぐに疲れてしまったりしてとても辛い思いをした。だから、今も人と自分を比べないようにしながら、自分の長所と短所を知って自分に合った努力の仕方を考えるようにしている。そして、前向きに考えることができるように日々心がけている。

この本を読んで、私は自分らしく生きることの大切さを学べた。今後、少しずつ自分を知りながら、自分にほこりを持って生きていきたい。そして、親友の母親をたまたま入った料理屋の店主がはげましたときのように、私もくじけそうな友達を見つけたら、元気づけて助けになりたいと思う。自分なりに努力している人がもっと前に進めるように、声をかけて応援できる人間でありたい。

【中学部・課題作文】

成瀬校 中3 W・Sさん（南成瀬中）

私は、小中学校に飛び級制度を導入するには工夫が必要だと思う。

現在、日本では飛び級制度があまり浸透していない。そのため、導入されているのは八校の大学の一部の学部だけだ。実際、私はこの課題文を読むまで日本での制度が運用されていることを知らなかった。また、大学での飛び級は入学・卒業を一、二年早めるだけであるため、元の学年にいてもあまり変わりがないようにも思える。しかし外国では小中学校にまでもこの制度が運用されていて、資料Ⅲを見ると、ドイツでは多くの学生が標準よりも上の学年に在籍している。

飛び級制度を導入すると、自分の能力に合った教育を受け、才能を大きく開花することができる。だが、学力以外の内面の成長が十分にできなかったり、周りとの価値観の違いによって上手にコミュニケーションを取れなかったりする心配がある。幼いうちから過度なプレッシャーに追い詰められる可能性もある。そのため、飛び級はしたい人がすれば良いと思う。また、内面的成長のサポートは周りの大人がするべきだと思う。飛び級をしたからといって近隣の人々との関わりがなくなるわけでも、習い事ができなくなるわけでもない。小中学校で学ぶべきコミュニケーション能力や、精神面の成長はこうした関わりでも学ぶことができる。やはり、周りのサポートが何よりも必要になるだろう。

そのためにも、まずは飛び級制度が行われることへの違和感を私たちからなくすことが大事だと私は思う。「年齢Ⅱ学年」という日本の昔からの固定観念を捨て、外国と同じ多様な生き方を認める社会を作るべきではないだろうか。現在、日本も世界各国も、地球全体で多くの問題を抱えている。その問題と共に暮らしそして解決する道を切り開くと言う使命にある私たち若者に、学びの場を広げ成長させてくれるこの飛び級制度を、工夫を施し導入してくれることを私は望む。

私は、飛び級制度には賛成だが、実際に導入するには工夫が必要だと思う。

まず課題文や資料を見ると、日本では飛び級が小中学校では全く導入されておらず、高校、大学のみで導入されていることがわかる。大学では早期入学が行われているが、その制度を導入しているのはごく一部の学校だけで技能教科系の学校が多いと感じた。その一方で海外に目を向けてみると、特にドイツでは十五歳時点で飛び級をしている生徒の割合が四十パーセントを超えていて、飛び級が当たり前の社会になっていることが読み取れる。また、スイスやアメリカなどでも二十パーセント前後の生徒が飛び級をしている。このことから年齢イコール学年という考え方は世界的にみれば当たり前ではないことを知った。私はこのままでは日本の若い世代は他国にどんどん遅れをとり、日本自体が先進国と叫べない状態になってしまうのではないかと不安な気持ちになった。

飛び級制度のメリットは周りの人と同レベルで勉強ができるという点で、デメリットは周りの人との年齢差で周囲とうまくコミュニケーションが取れなくなってしまう可能性があることだ。私が考える解決策は、同じ年齢の飛び級ができる生徒だけを集めて同じ空間で勉強するという方法だ。この方法なら周りの人と同レベルで勉強ができるメリットを残しつつ、周りの人との年齢差がなくなるので、コミュニケーションがとれなくなるデメリットを解決することができる。

このような理由から、私は日本でも飛び級制度を導入するべきだと思う。しかし、実際に導入するには、今述べたような工夫をして生徒の負担を減らすべきだ。そして、今の若い世代が日本を引っ張っていく存在になることを願っている。